

「広島神楽」定期公演へようこそ!

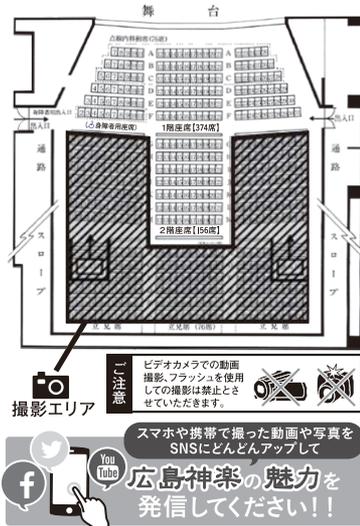
本日はご来場いただき、まことにありがとうございます。
当公演では、全てのお客様に気持ちよく神楽を鑑賞していただくため、下記のルールを設けています。
ご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- (1) 座席での**飲食は出来ません**。ロビーをご利用下さい。
- (2) 上演中の立ち歩きや大声での私語など**他のお客様のご迷惑になる行為**はご遠慮下さい。
- (3) お子様連れの方は、お子様が舞台の前に出られると、演出等で**危険な場合**がございます。**着席**での鑑賞をお願いします。
- (4) 撮影について
→写真撮影は右図の**撮影エリア**で行って下さい。
※ビデオカメラでの**動画撮影**、**フラッシュの使用は禁止**します。
(マスコミ関係など主催者の許可を得ている場合を除く)

以上です。どうぞ、最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

撮影エリアについてのご案内

写真撮影をご希望の方は必ず、下記の撮影エリアでお願いいたします。



4月27日のタイムスケジュール

出演：栗栖神楽団 (廿日市市)

19:00～開演

19:05～第一幕『神武』

(およそ 40 分)

～幕間 (休憩)～

20:00～第二幕『八岐大蛇』

(およそ 40 分)

20:45～記念撮影会

衣装やお面を実際に見ていただき、記念撮影をしていただけます。携帯電話での撮影も大歓迎です。
本日の記念には是非ご参加下さい。
また、神楽団との交流もしていただけます。疑問に思ったことなど、直接団員にお聞きください。
(舞台へは靴を脱いでお上がりください。)
※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。

くりすかくらだん

栗栖神楽団プロフィール ～廿日市市～

昭和32年、栗栖地区の住民たちが郷土発展のためにと矢上系山県舞(六調子旧舞)を伝承し、栗栖神楽団として発足致しました。

現在10代から50代の団員で郷土芸能の伝承発展のため日々精進しているところです。

まだまだ経験不足で技術的にも未熟ですが、「神楽を舞わせて頂く」という感謝の気持ちを忘れず一生懸命頑張っていきたいと思っております。

皆様方にはこれからも引き続きのご愛顧、ご指導の程をお願い申し上げます。

第一幕『神武』(じんむ)

伊波礼彦尊(いわれひこのみこと)は日向の国より東の大和の国に東征に行き、長髓彦一族を激戦の末、見事、征伐します。そして、大和三山の一つ、畝傍山(うねびやま)の麓、榎原(かしはら)の地で即位され初代の神武天皇となられ、天下の政(まつりごと)を行われたという物語です。

【出演】	大太鼓 … 山崎 大介	伊波礼彦尊 … 山崎 雅也	長髓彦尊 … 板村 駿
	小太鼓 … 山平 洋治	日臣尊 … 松浦 幸大	賊 … 吉本 登志充
	手打鉦 … 水口 慧吾		
	笛 … 松村 和信		

第二幕『八岐大蛇』(やまたのおろち)

出雲の国に暮らす足名稚(あしなづち)・手名稚(てなづち)老夫婦には八人の娘がいました。しかし年毎に一人またひとりと大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の姫が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の姫・櫛稲田姫(くしいなだひめ)は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原(たかまがはら)から舞い降りた素戔嗚尊(すさのおのみこと)が通りかかり、その詔を聞きます。

尊は、大蛇退治を決め、老夫婦に八塩折(やしおり)の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立たせます。やがて、どこからともなく大蛇が現れ、毒酒に映った姫の影を飲み干していきます。酔いの回るほどに暴れ狂い、しだいに酔い伏してしまいます。これを待ち構えていた尊は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。

大蛇の腹を切り裂くと、一本の刀が出てきます。これを天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)と名づけ、天照大神(あまてらすおおみかみ)に捧げます。そしてめでたく奇稲田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。

【出演】	大太鼓 … 黒田 祐二	素戔嗚尊 … 藤原 響	大蛇 … 吉本 登志充	大蛇 … 山崎 大介
	小太鼓 … 松浦 幸大	足名稚 … 板村 駿	大蛇 … 山崎 雅也	大蛇 … 水口 慧吾
	手打鉦 … 益田 雅史	手名稚 … 山崎 豊治	大蛇 … 岩崎 義隆	
	笛 … 二井 萌香	櫛稲田姫 … 末森 敬也		

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。